

<医師用>

意見書	
とのがや保育園園長様	児童氏名
病名	
年 月 日	年 月 日
から症状も回復し集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します。	
医療機関	
医師名	印

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行を防ぐことで一人一人の子どもが一日を快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の提出をお願いします。感染力のある期間に配慮し、子どもの回復状態が集団での保育生活において可能な状態になってからの登園であるようご配慮ください。

「医師が記入した意見書」の提出が望ましい感染症

感染名	感染しやすい期間	当園のめやす
麻疹(はしか)	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから。
インフルエンザ	症状がある期間(発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い)	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで。
風しん	発疹出現の7日前から後7日くらい	発疹が消失してから。
水痘(水ぼうそう)	発疹出現1～2日前から痂皮形成(かさぶた)まで	すべての発疹が、痂皮化(かさぶた)してから。
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで。
結核		医師により感染の恐れがないと認められるまで。
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消滅するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで。
腸管出血性大腸菌感染症(O157,O26,O111等)		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間を空けて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が認められたとき。
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数か月排出される	医師により感染の恐れがないと認められるまで。
髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認められるまで。
アデノウイルス咽頭結膜炎(プール熱) 流行性角結膜炎(はやり目)	発熱、充血、目やに等の症状が出現した数日間	咽頭結膜炎: 主な症状が消え2日間経過してから。 流行性角結膜炎: 非常に感染力が強いため、結膜炎の症状が消滅してから。

〈保護者用〉

登園の際には、下記の登園届の提出をお願いします。
(なお、登園のめやすは、子どもの全身状態が良好であることが基準となります。)

登園届(保護者記入)	
とのがや保育園園長様	児童氏名
病名	と診断され
年 月 日医療機関名「 団生活に支障がないと判断されましたので登園いたします。」	」において症状が回復し、集
保護者名	印

保育園は、乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、一人一人の子どもが一日快適に生活できることが大切です。
保育園入所児が良くかかる下記の感染症については、登園のめやすを参考に、かかりつけの医師の診断に従い、登園届の提出をお願いします。なお、保育園での集団生活に適応できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮ください。

「医師の診断を受け、保護者が記入する登園届」の提出が望ましい感染症

病名	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること。
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること。
手足口病	手足や口腔内に水泡・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。
伝染性紅斑 (リンゴ病)	発疹出現前の1週間	全身状態が良いこと。
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	症状がある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排出しているため注意が必要)	嘔吐・下痢などの症状が治まり、普段の食事がとれること。
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に一ヶ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要)	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。
RSウイルス	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消滅し全身状態が良いこと。
帯状疱疹	水泡を形成している間	すべての発疹が痂皮化(かさぶた)してから
単純ヘルペス感染症	水泡を形成している間	口唇ヘルペス、歯肉口内炎のみで、食事がきちんととれていれば、マスクをして登園が可能。痛みが強い、発熱、全身性の水泡の場合は、欠席し治療するのが望ましい。
突発性発疹	紅斑、水泡、びらん及び厚い痂皮を形成する炎症症状がある間	解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと。
伝染性膿痂皮 (とびひ)	水泡を形成している間	解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと。
伝染性軟属腫 (水いぼ)	伝染性軟属腫ウイルスによる感染で起こるいぼの一種。いぼが破れて中のウイルスが飛び散るとそれに触れた他の皮膚や他人に移る。	いぼがある以外の症状はほとんどない。真ん中がくぼんだ艶のあるいぼ、粟粒のような湿疹で痒み・痛みはない。
アタマジラミ	アタマジラミの卵、成虫が確認されている間	医師の診察を受け、登園の許可を確認(スミスリンシャンプー等で適切な駆除をする)

